

● 環境省からのお知らせ ●

いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』シンポジウム開催！

環境省では、いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』シンポジウムを開催します。これまでの環境再生事業を振り返るとともに、オンラインで多くの福島県民の方と会場を繋ぎ、福島の未来について語るセッションなどを行います。また、福島の未来や希望に関するアイデアを募集した「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』チャレンジ・アワード」表彰式や受賞者との意見交換を行います。ぜひご参加ください。

■開催日：2021年3月13日(土)

■開催場所：ナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」
(福島県双葉郡楡葉町山田岡美シ森8)



環境省 いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』

検索

「福島環境再生 360°バーチャルツアー」を公開しました



福島環境再生の様子や環境省が福島で取り組んでいる事業についてweb上でご覧いただける「福島環境再生360°バーチャルツアー」を公開しました。先行公開中のバーチャルツアーでは、飯館村長泥地区で行っている除去土壌の再生利用実証事業をめぐる様子。360°カメラを駆使した画像とともに、環境省職員による解説、現場作業員や住民の皆様の声もお届けします。

今後、中間貯蔵施設や特定廃棄物埋立処分施設のツアーも随時公開していきます。ぜひご覧ください。

福島環境再生 バーチャルツアー

検索



新番組「なすびのギモンpart8」第3回・第4回放送！

テレビ番組「なすびのギモンpart8」が福島放送(KFB)で放送されます。福島市出身のタレント・なすびさんが実際に現地取材し、除染や放射線に関する様々なギモンや環境再生への取り組みなどを分かりやすくレポートします。

今回のテーマは、「除去土壌の再生利用ってどんなことをしているの？」。

前回に引き続き飯館村長泥地区を訪れ、再生利用実証事業についてうかがいます。

福島放送(KFB) 第3回：3月2日(火)21:50～ / 第4回：3月9日(火)20:56～

番組放送後は、環境再生プラザ なすびのギモン公式ホームページでご視聴いただけます。第1回、第2回放送分と合わせて、ぜひご覧ください。

なすびのギモン

検索



環境省の情報発信拠点

● 中間貯蔵工事情報センター



■所在地 福島県双葉郡大熊町

大字小入野字向畑 256

■開館時間 10:00～16:00

■休館日 日曜日・月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)

■電話番号 0240-25-8377

中間貯蔵施設工事について紹介しています。
毎月、中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



■所在地 福島県双葉郡富岡町

大字上郡山字太田 526-7

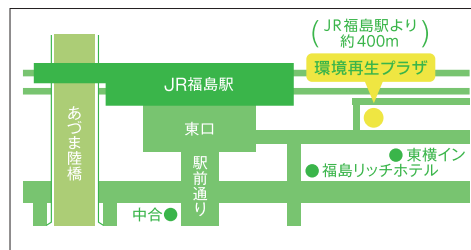
■開館時間 9:00～17:00

■休館日 月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)

■電話番号 0240-23-7781

特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

● 環境再生プラザ



■所在地 福島県福島市米町

1-31 1階

■開館時間 10:00～17:00

■休館日 月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)

■電話番号 024-529-5668

福島環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

飯館村長泥地区の未来へ(Part2) 2021.3月

ふくしま環境再生 Vol.16

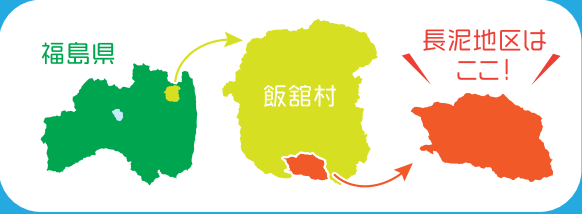


「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。



環境省 福島地方環境事務所

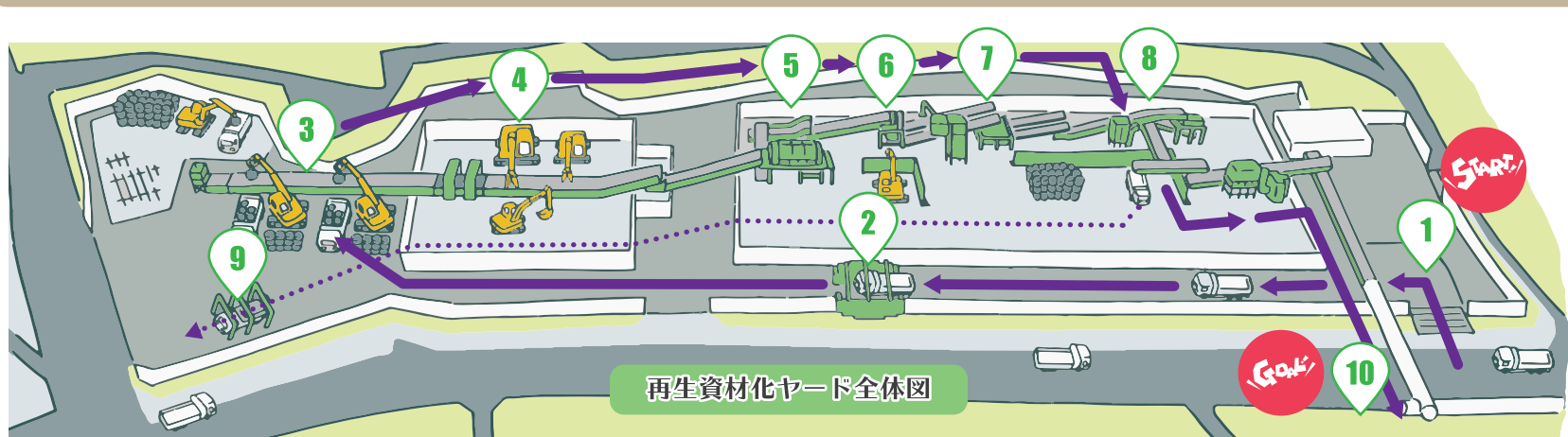
環境省では、飯舘村長泥地区の復興に向けた環境再生事業を進めています。放射能濃度が1kg(キログラム)あたり5,000Bq(ベクレル)以下の除去土壌を、異物除去などの工程を経て再生資材化し盛土します。その上に放射線を遮るための土をかぶせ、営農しやすい農地の盛土を造成します。今回は、除去土壌の再生資材化の工程をご紹介します。



環境再生事業はどのように進められるの？



再生資材ってどうやってできるの？



START! 1 除去土壌搬入

村内の仮置場などで放射能濃度を測定し、5,000Bq/kg以下の大型土のう袋を選定してダンプトラックで搬入します。

2 破碎前の放射能濃度測定

ダンプトラックに大型土のう袋を積んだまま「トラックスキャン※1」で放射能濃度を測定し、5,000Bq/kg以下であることを確認します。

体積などの測定

放射能濃度測定

3 荷下ろし

大型土のう袋をバックホウで荷下ろしし、ベルトコンベア上に置かれた後、『ウォータージェット※2』で破袋し、土壌を取り出します。

バックホウ

ウォータージェット

大型土のう袋

ダンプトラック

ベルトコンベア

4 破袋

回転式のふるいにより、大きな木や石などを取り除きます。

回転式のふるい

5 異物除去

ベルトコンベア上を移動する土壌から、磁石を使って金属類を取り除きます。

磁石

金属類

6 金属類除去

ベルトコンベア上を移動する土壌から、磁石を使って金属類を取り除きます。

磁石

金属類

7 改質※3

ベルトコンベア上で土壌の水分量を測定し、必要に応じて改質材を加え、機械で混ぜ合わせます。

土壌中の水分量を測定

改質材の添加

混合する機械

改質前

改質後

8 分別

振動させる機械(ふるい)で125mm以上の異物を分別し、再生資材を作ります。

振動させる機械(ふるい)

9 再生資材化後の放射能濃度測定

再生資材化後の土壌をトラックの荷台に載せた状態で放射能濃度を測定し、5,000Bq/kg以下であることを確認します。

※作業日の開始時に測定

10 ベルトコンベアで農地盛土造成地へ

ベルトコンベア

用語解説

※1 トラックスキャン…… 合計8台の検出器を車両両側に配置し、大型土のう袋をダンプトラックの荷台に積んだ状態で放射能濃度を測定することができる技術。

※2 ウォータージェット…… 小径ノズルから超高圧の水を噴射することで、切断する工法。

※3 改質…… 除去土壌には水分が多く、団子状に固まった粘性土壌が混ざっていることもあるため、改質材により土の水分を分離してほぐした状態にすることができます。

NEWS 盛土実証ヤードでの栽培実験について

一部の区画で覆土が有る場合と無い場合での比較試験を行いました。この試験は、地元の要望に基づき、作物の生育性や安全性を比較するためにあくまで試験的に行ったものです。2020年度はキャベツとインゲン育て、結果は右表の通りとなりました。

覆土有り・無しともに、一般食品に関する放射性セシウムの基準値である100Bq/kgを大きく下回る結果となりました。なお、今回の結果は厚生労働省の定める食品中の放射性セシウム検査法において、検出下限値未満とされ得る値(20Bq/kg未満)でした。(検出限界値を0.1Bq/kg程度とするためにGe半導体検出器で約15時間程度測定しました)

	覆土無し	覆土有り
インゲン	0.4Bq/kg	0.3Bq/kg
キャベツ	1.6Bq/kg	0.8Bq/kg



NEWS 水田の機能を確認するための試験を実施します

長泥地区住民の方々や有識者などから構成される飯舘村長泥地区環境再生事業運営協議会の委員や、飯舘村からの要望を踏まえ、再生資材の上に山砂で覆土した盛土において、2021年度に水田の造成に係る試験施工を行うことになりました。試験はこの盛土がトラクター作業やコンバイン作業などに支障のない水田として機能するかという点を確認するために行います。なお、機械作業の評価のために、田植え・稲刈りなどを行いますが、収穫物は全量廃棄し、出荷などはいりません。今後、水田の農地造成を5月下旬までに行い、その後水張り試験などを10月まで実施する予定です。

飯舘村長泥地区における環境再生事業についての詳細は、中間貯蔵施設情報サイトをご覧ください。

